

理学療法士 小野 優里



平成26年2月7～8日の2日間に渡り、愛知県の名古屋国際会議場にて全国回復期リハビリテーション病棟協会研究大会が開催され、当院より2名が参加しました。

発表会は全14会場に分かれ、口演発表とポスター発表での形式で、それぞれの研究内容の発表や質疑応答により、多職種間での見解・情報・交流を深めることができました。

当院からは、理学療法士の安部和弥が「移動動作が自宅復帰率に与える影響～理学療法士によるモーニングケアを通じて～」という内容で発表を行いました。

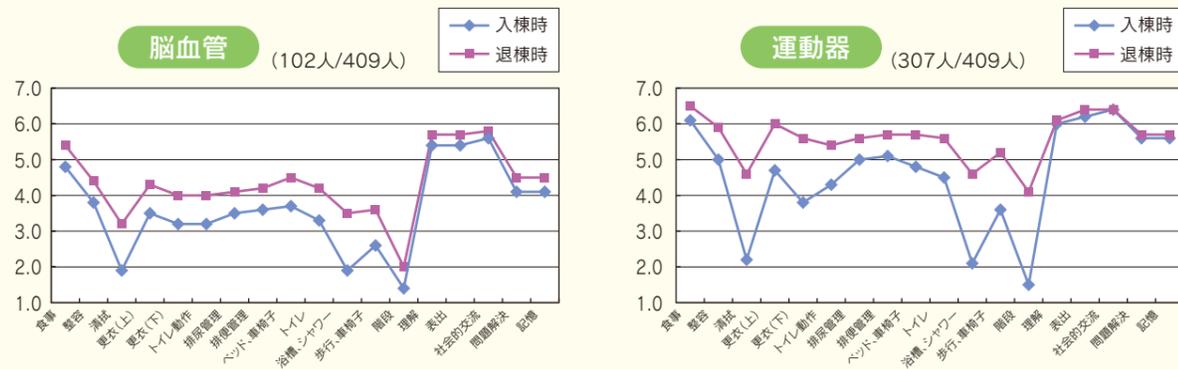
来年の研究発表は愛媛で開催されることが決まっています。来年のテーマは「変革するこれからのリハビリテーションを考えよう」です。

2000年4月に制度化された回復期リハビリテーション病棟は病棟にリハ科医師・看護師・介護職員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士による病棟単位のチームアプローチを評価する形となりました。今後の回復期リハ病棟は、質的向上を目指し今以上に切磋琢磨することが求められていると思われま

リハビリ実績 (2013年1月～12月までの 当院回復期リハビリテーション病棟退院患者)

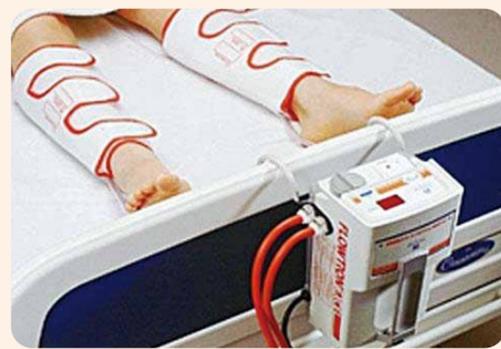
グラフは運動器疾患(大腿骨骨折、変形性関節症等)307名、脳血管疾患(脳梗塞や脳出血、頭部外傷等)102名、計409名の退院患者さんのリハビリ実績です。入棟(入院)時と比較し日常生活動作の各項目において改善が見られ、退院時は運動器疾患平均18.3点、脳血管疾患平均13.1点の向上を認め、年間の平均在宅復帰率は90.6%でした。

当院回復期リハビリテーション病棟では、日曜・祝日・元旦を含め365日リハビリテーションを実施しております。安心・安全なリハビリテーションと一日でも早い回復・在宅復帰を目指し、今後もより良いリハビリテーションの提供に努めてまいります。



- ① 足に少しきつめの靴下(弾性ストッキング)をはき、あしの深部の静脈血流をうながす方法
- ② 血液をサラサラにするための薬物療法(抗凝固療法)
- ③ あしを時間おきに空気ポンプでマッサージするように圧迫して静脈血流をつくり出し、あしの血流を停滞させないようにする方法(間欠的空気圧迫法)

の3つの方法があります。本院では、これらの予防方法を徹底して行っていますが、さらに、リハビリを行う理学療法士のほか、医師、看護師、臨床検査技師で「静脈血栓塞栓症対策チーム」を組み、血栓をつくりやすい入院患者さんを対象に毎週、回診を行っています。患者さんの状態やリハビリの状況、検査・診察所見など、お互い情報交換を行いながら、各患者さんの血栓予防策の実施状況と、その効果を確認するためです。また、下肢静脈超音波検査を積極的に行い、血栓の早期発見・早期治療にも努めています。



安全にリハビリに励んでいただけるよう、今後とも肺血栓塞栓症の予防対策に取り組んでいきます。

静脈血栓塞栓症対策チームの取り組み

静脈血栓塞栓症対策チーム・看護師 中畑 弥生

医師、看護師、理学療法士、臨床検査技師による静脈血栓塞栓症(以下VTE)対策を行っています。活動は、カンファレンスで情報の共有を図り、週1回の定期回診を行っています。多職種からなる対策チームで、看護師の私は1番患者さんの身近にいますので日常的な観察・指導を行って異常の早期発見、VTE予防に努めていきたいと思っています。



チームの役割

医師

- ・診察
- ・下肢静脈エコー
- ・指示

看護師

- ・観察
- ・日常生活指導
- ・ストッキング
- ・ポンプ

リハビリ

- ・運動
- ・歩行状態
- ・観察

検査技師

- ・D-ダイマー測定
- ・下肢静脈エコー



禁煙サポートチームより

看護師 山瀬 敦子

禁煙サポートチームが発足し、はや7ヶ月になります。当院は全館、敷地内禁煙となっていますので、当然喫煙していた方は禁煙していただきます。そういう患者さんを対象に禁煙サポートチームが介入し、禁煙指導を行っています。

退院後も禁煙が続けられるように、メールサポートさせていただいております。

現在退院1ヶ月後の禁煙成功率が64%で、退院3ヶ月後の成功率が50%です。社会的にも禁煙は重要視されてきています。今後も少しでもお役にたてるように禁煙サポートチームとしてがんばっていきたいと思います。



いいもの見つけた! 「スカイリフト」

スカイリフト とは…?

ベッドから車椅子に移る際に使用する福祉用具です。従来の吊り上げ式のリフトとは一味違い、「立つ」ことができるリフトなんです。

このリフトが使用できる対象としては体重100kg未満、身長145~175cmの方、足の筋力低下や麻痺で歩行や立ち上がり動作の難しい高齢者や障害を持った方となります。

このスカイリフトの特徴としては「小回り性が高く、移動や移乗がスムーズなスタンディングリフト」「超コンパクトサイズ」「簡単装着・操作」とあり、生活のさまざまなシーンに幅広く活用できます。介護する人の介護負担を減らし、介護される人の心身機能の活性化につなげることができるのです!例えば長時間車椅子に座っている際このリフトを使用して立ち上がることで気分転換・床ずれの予防になります。トイレに座ることが難しい時でもこのリフトを使用すればトイレに座っての排泄が可能になります。なんといっても「立つ訓練」ができることがとても魅力的なリフトです。

